



サステナビリティレポート
Sustainability Report

2020-

ともに考え、ともにつくる

私たちの存在意義とは何か。
私たちの使命とは何か。
より良い未来をつくっていくために
責任を果たし、
信頼される報道機関であり続けたい。
そのために私たちは努力し続けます。

健全に、公正に、そして謙虚に。
みなさまと社会の課題を共有し、
多角的な視点でともに
解決策を探っていくために。
朝日新聞社で働く一人ひとりが
いま、動きだします。

朝日新聞社

Contents

- 1 はじめに
- 2 国連 GC に参加
- 3 特集 SDGs
- 7 環境
- 9 社会
- 11 ガバナンス
- 13 会社概要
- 14 付録 ペタッとSDGs

WE SUPPORT



朝日新聞社は 2004 年、日本のメディアとして初めて「国連グローバル・コンパクト (GC)」に署名しました。人権、労働、環境、腐敗防止の4分野の10原則を守り、報道機関の責務と同時に社会的な責任を果たします。18年にはSDGs推進のため国連がメディアに呼びかけた「SDG メディア・コンパクト」の創設メンバーになりました。



「ペタッとSDGs」を使って思考を見える化

SDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標) は「誰も置き去りにしない」を基本方針に、2030年までに世界が取り組む行動計画で、17分野のゴールが掲げられています。2015年の国連総会で全会一致で採択されました。

朝日新聞には、これら17のゴールと関連する記事が数多く掲載されています。ゴールを意識しながら記事を読み、みんなで思考を共有することで新たな気づきが生まれ、課題解決に向けた様々な取り組みが可能になります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsの17ゴール

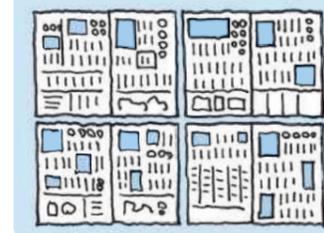
- (1) 貧困をなくそう**
あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
- (2) 飢餓をゼロに**
飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
- (3) すべての人に健康と福祉を**
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
- (4) 質の高い教育をみんなに**
すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
- (5) ジェンダー平等を実現しよう**
ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う
- (6) 安全な水とトイレを世界中に**
すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
- (7) エネルギーをみんなにそしてクリーンに**
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
- (8) 働きがいも経済成長も**
包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する
- (9) 産業と技術革新の基盤をつくろう**
強靱なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
- (10) 人や国の不平等をなくそう**
各国内及び各国間の不平等を是正する
- (11) 住み続けられるまちづくりを**
包摂的で安全かつ強靱で持続可能な都市及び人間居住を実現する
- (12) つくる責任 つかう責任**
持続可能な生産消費形態を確保する
- (13) 気候変動に具体的な対策を**
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
- (14) 海の豊かさを守ろう**
持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
- (15) 陸の豊かさを守ろう**
陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
- (16) 平和と公正をすべての人に**
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
- (17) パートナーシップで目標を達成しよう**
持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

準備するもの

- ペタッとSDGs (1人3枚程度、各自で切り分けます)
- 朝日新聞 (1人1部ずつ、全体の掲示用2部)
- 筆記用具、のり、はさみ (各自)

進め方

はじめる前に



壁などに朝日新聞の全ページを右から1、2、3ページと続けて貼り出しておきます

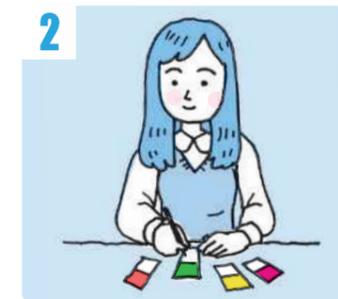
1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナーシップで目標を達成しよう	18

14ページ付録



SDGsを意識しながら新聞を読み「17のゴール」に関連する記事をもつ以上探そう

ポジティブ・ネガティブどちらの視点でもOK



記事と関連するゴールのふせんを選び、余白に「つぶやき」と「名前」を書こう

関連するゴールがない場合は「18番目のゴール」を作ろう



書いたふせんを新聞の見出しの近くに仮どめする

のりは少なめに

ワークI



選んだ記事、ふせん、つぶやきをグループで発表し合い共有しよう

ワークII



掲示した新聞にふせんを貼り直そう



参加者みんなのふせんを見て、全員で考えを共有しよう

環境への取り組み

朝日新聞社は、2001年元日に新聞業界で最初となる「環境憲章」を策定しました。

記事や広告で環境の大切さや情報を積極的に発信し、自らも工場やオフィスの環境負荷低減に努力することで環境への取り組みを一層強化しています。

そのために前年度の実績を検証して、環境行動計画の見直しを行っています。結果はホームページに掲載して、読者や社会に公開しています。

18年11月、パリ協定が求める脱炭素社会の実現に向け、世界と共に挑戦の最前線に立つことを約束する、「気候変動イニシアティブ」(Japan Climate Initiative)に参加しました。

毎年秋に開催する国際シンポジウム「朝日地球会議」や次世代に向けた環境教育プロジェクト「地球教室」といった取り組みも続けています。



朝日新聞環境憲章

〈基本理念〉

21世紀を迎えて、ますます全人類的な課題となる環境・資源問題に対し、朝日新聞社は、これまでの姿勢、取り組みをさらに強め、国民の意識を先取りした環境先進企業となるべく、全社をあげて環境改善に努める。

〈基本方針〉

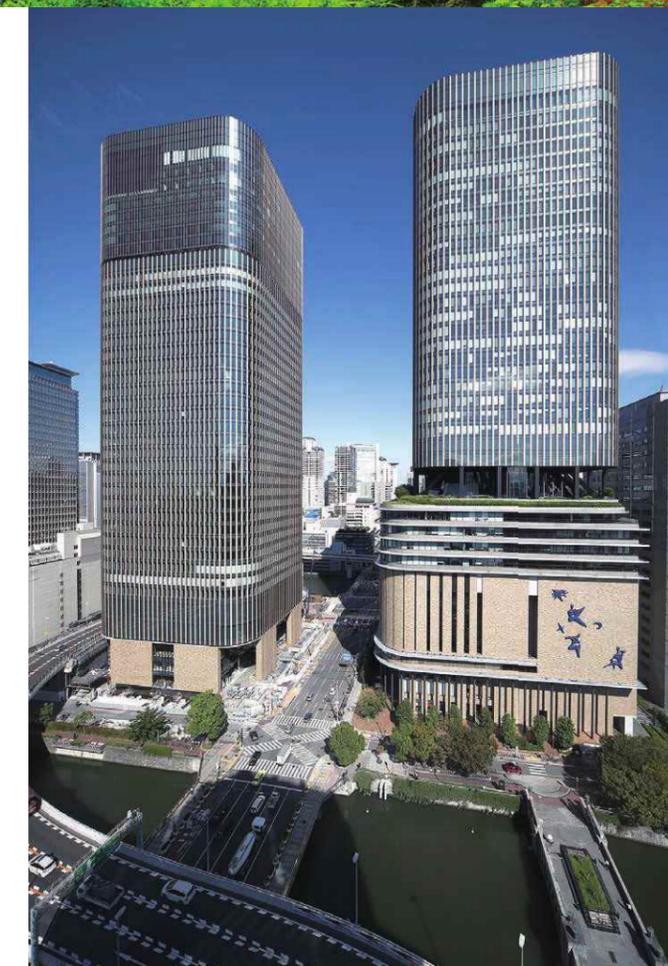
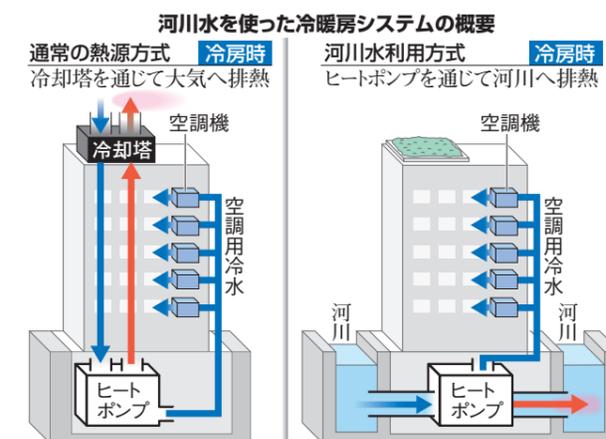
1. 事業活動によって発生する様々な廃棄物などの再資源化をより一層進める。
2. エネルギー利用をさらに効率化し、環境への負荷を低減する。
3. 環境関連の諸法令や自治体条例の順守にとどまらず、これらの先を行く努力をする。
4. 社内広報や啓蒙活動を通して、社員一人ひとりの自覚を高め、日常の行動に反映させる。

2001年1月1日

大阪・フェスティバルシティ

大阪市北区中之島地区で開発を進めてきた、国内最高峰のツインタワーからなる「フェスティバルシティ」。真ん中を公道（四つ橋筋）が通る、ユニークで独特な景観をつくり出すタワーに大阪本社が入居しています。

国内トップクラスの耐震性を誇るタワーは、河川水を利用した地域冷暖房システム、センサーによる調光・空調制御やLED化など優れた省エネ機能を備えています。非常用発電機による72時間電気供給や十分な備蓄により、国内トップクラスのBCP（事業継続計画）や防災・減災を実現しています。



東京本社・人工庭園

東京本社的人工庭園には、約5180平方メートルの「植物園」があり、桜、カリン、シャクナゲ、ボタンなど四季折々の花や樹木が出迎えてくれます。訪れた人たちに楽しんでもらおうと、本館が完成した1980年に296種、約1万9千本が植えられました。社員だけでなく、周辺に勤務する人や近くの保育園児の憩いの場ともなっています。



森林文化協会

公益財団法人森林文化協会は、朝日新聞創刊100周年を記念して1978年9月に設立されました。「山と木と人の共生」を基本理念に、温暖化の危機から地球環境を守るため、健やかな森や里山を育て、月刊誌『グリーン・パワー』の発行や皇居東御苑、長野県の赤沢自然休養林（森林浴発祥の地）での野外セミナーなど、さまざまな活動をしています。



合唱・吹奏楽

音楽は人々を元気づけ、絆を深める力があります。演奏者が心を合わせて作り出す美しいハーモニーは、多くの感動を呼びます。本社は全日本合唱連盟とともに「全日本合唱コンクール」「全日本おかあさんコーラス」、全日本吹奏楽連盟とともに「全日本吹奏楽コンクール」「全日本マーチングコンテスト」「全日本アンサンブルコンテスト」などを主催しています。合唱、吹奏楽のコンクール全国大会の中学校・高校の部については、イオンシネマを中心とする全国の映画館で中継上映する「ライブビューイング」を実施し、人気を集めています。



NIE（教育に新聞を）

新聞を教育に役立ててもらおう NIE (Newspaper in Education) の活動に力を入れています。社員が学校を訪問し、新聞の読み方、記者の仕事、ニュースの背景、メディアリテラシーなどをテーマに「新聞出前授業」を実施。先生向けに「新聞授業ガイドブック」も発行しています。平和を考える教育特集のタブロイド判「知る原爆」「知る沖縄戦」のほか、「知る水俣病」も仲間入り。いずれも希望する学校に無料でお送りしています。



こどもの国

こどもの国は、多摩丘陵の森を生かした広さ約 100 ヘクタールの遊び場です。児童の遠足、家族のレクリエーション、シニア層の散策にと、心身の健康増進と安らぎの場を提供しています。皇太子殿下（現上皇陛下）のご結婚を記念して、全国から寄せられたお祝い金をもとに、1965 年（昭和 40 年）5 月 5 日に開園。緑に囲まれた広場や湖、プール、スケート場、サッカー場があり、牧場には乳牛、ヒツジが放牧され、こどもどうぶつえんではウサギやモルモットとふれあうことができます。



ノーベル賞に輝いた朝日賞受賞者

受賞者（朝日賞受賞年度／ノーベル賞受賞年と分野）

- 朝永 振一郎 (1946 / 1965 物理学)
- 江崎 玲於奈 (1959 / 1973 物理学)
- 利根川 進 (1981 / 1987 医学生理学)
- 本庶 佑 (1981 / 2018 医学生理学)
- 小柴 昌俊 (1987* / 2002 物理学)
- 梶田 隆章 (1987*、1998* / 2015 物理学)
- 野依 良治 (1992 / 2001 化学)
- 大江 健三郎 (1994 / 1994 文学)
- 小林 誠 (1994 / 2008 物理学)
- 益川 敏英 (1994 / 2008 物理学)
- 赤崎 勇 (2000 / 2014 物理学)
- 中村 修二 (2000 / 2014 物理学)
- 下村 脩 (2006 / 2008 化学)
- 山中 伸弥 (2007 / 2012 医学生理学)
- 大隅 良典 (2008 / 2016 医学生理学)
- 大村 智 (2014 / 2015 医学生理学)

*はグループ受賞。敬称略



JSEC

科学技術の自由研究コンテスト「JSEC」(ジェイセック / 高校生・高専生科学技術チャレンジ) をテレビ朝日とともに開いています。上位入賞者を毎年、アメリカで開催される国際大会に派遣。自発的に課題を見つけて研究する若い人材を応援し、解決力、展開力、国際競争力の成長をサポートします。



表彰事業

朝日新聞社の表彰事業を代表する朝日賞は、1929 年の創設（現在は朝日新聞文化財団主催）で、学術、芸術などの分野で傑出した業績を上げ、文化や社会の発展に多大な貢献をした個人・団体に贈られます。大村智さん、本庶佑さん、山中伸弥さんら後にノーベル賞や文化勲章を受ける受賞者も数多く輩出しています。2019 年度は小説家・詩人の多和田葉子さん、落語家の柳家小三治さん、京都大教授の斎藤通紀さん、名古屋大教授の東山哲也さん、朝日賞特別賞として写真家の田沼武能さんに贈られました。

また、マンガ文化に大きな足跡を残した故手塚治虫氏の功績を記念し 1997 年に創設されたのが、手塚治虫文化賞です。そのほか、朝日スポーツ賞、大佛次郎賞、大佛次郎論壇賞、朝日広告賞などを主催しています。

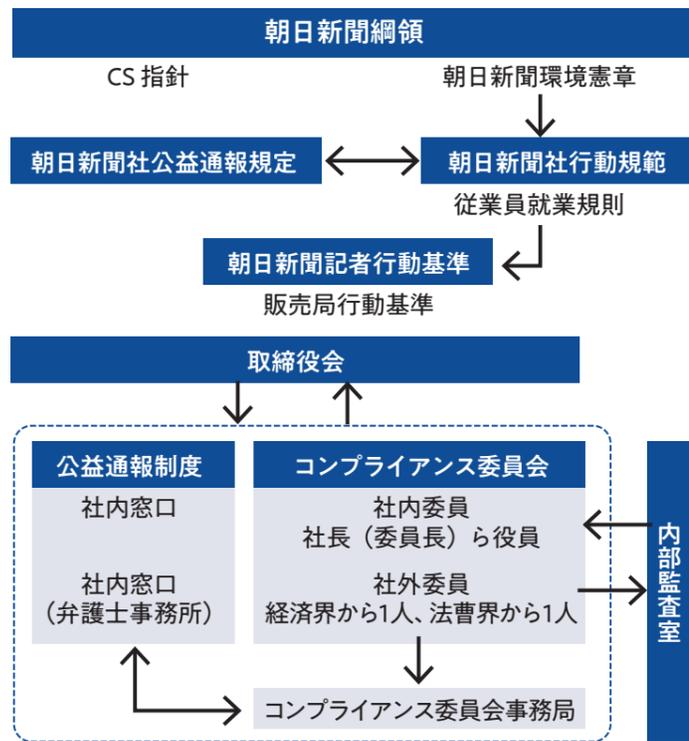


©手塚プロダクション

コンプライアンス体制

朝日新聞社で働くすべての者が守るべき「朝日新聞社行動規範」を2006年4月に定め、同時に公益通報制度も設けました。社長を委員長とし、2人の社外委員も参加するコンプライアンス委員会が、問題があれば直ちに対応し是正する体制を整えています。グループ企業・団体を含め、朝日新聞社グループは今後も、コンプライアンス意識の浸透に努めてまいります。

コンプライアンス体制 組織図・体系図



パブリックエディター制度

本社は「ともに考え、ともに作るメディアへ」を掲げ、2015年4月にパブリックエディター (PE) 制度を新設しました。読者の声や社外の評価を踏まえて報道を点検し、編集部門に説明や改善を求めています。16年春には、各界の有識者と編集部門で報道に関して討議してきた「紙面審議会」に代わり、PE が中心となる「あすへの報道審議会」を発足させました。年に3回程度開き、朝日新聞紙面と朝日新聞デジタル、コーポレートサイトで報告しています。PE はコラム「パブリックエディターから」を執筆し、原則として毎月掲載します。



働き方改革

「働き方改革は経営の1丁目1番地」。渡辺雅隆社長自ら、そうメッセージを発し、社員とその家族、そして取引先などを含めた働き方改革を進めています。在宅勤務制度は、介護などの事情に合わせて実家でも利用できずし、病院や PTA などの予定とも両立できるよう、最大3時間の「中断」も組み込みました。半日休は年間で72日間取得できるよう拡充。就業時刻を前後に最大2時間ずらせる「スライド勤務」も新設しました。

また、定年も65歳に延長。管理職の女性登用も積極的に進めています。多様な働き方のニーズを受けて、さらなる環境整備に向けた様々な取り組みに挑んでいます。

仕事しやすい働きがいのある会社に

満2歳の年度末まで取得できる育児休業や最長1年取得できる介護休業をはじめ、育児や介護などを理由に退職した従業員の再雇用制度 (ジョブ・リターン制度)、スキルアップや配偶者の海外赴任同行や不妊治療のために長期休職できる「自己充実休職」、妊娠・出産、育児・介護休業に関するハラスメント防止規定などがあります。

結婚休暇を同性パートナーシップにも適用するなど、ダイバーシティ (多様性) や人権擁護、多様な働き方やWLB (ワーク・ライフ・バランス) を推進するため、社内制度の整備や研修・啓発を行っています。

ビジネス・アシスト・オフィス

2018年4月、障がいのある方が働く専門部署「ビジネス・アシスト・オフィス (BAO)」を東京本社内に設けました。スタッフ8名が専門知識のあるサポーターのもとで勤務し、それぞれ得意分野をいかして仕事をしています。

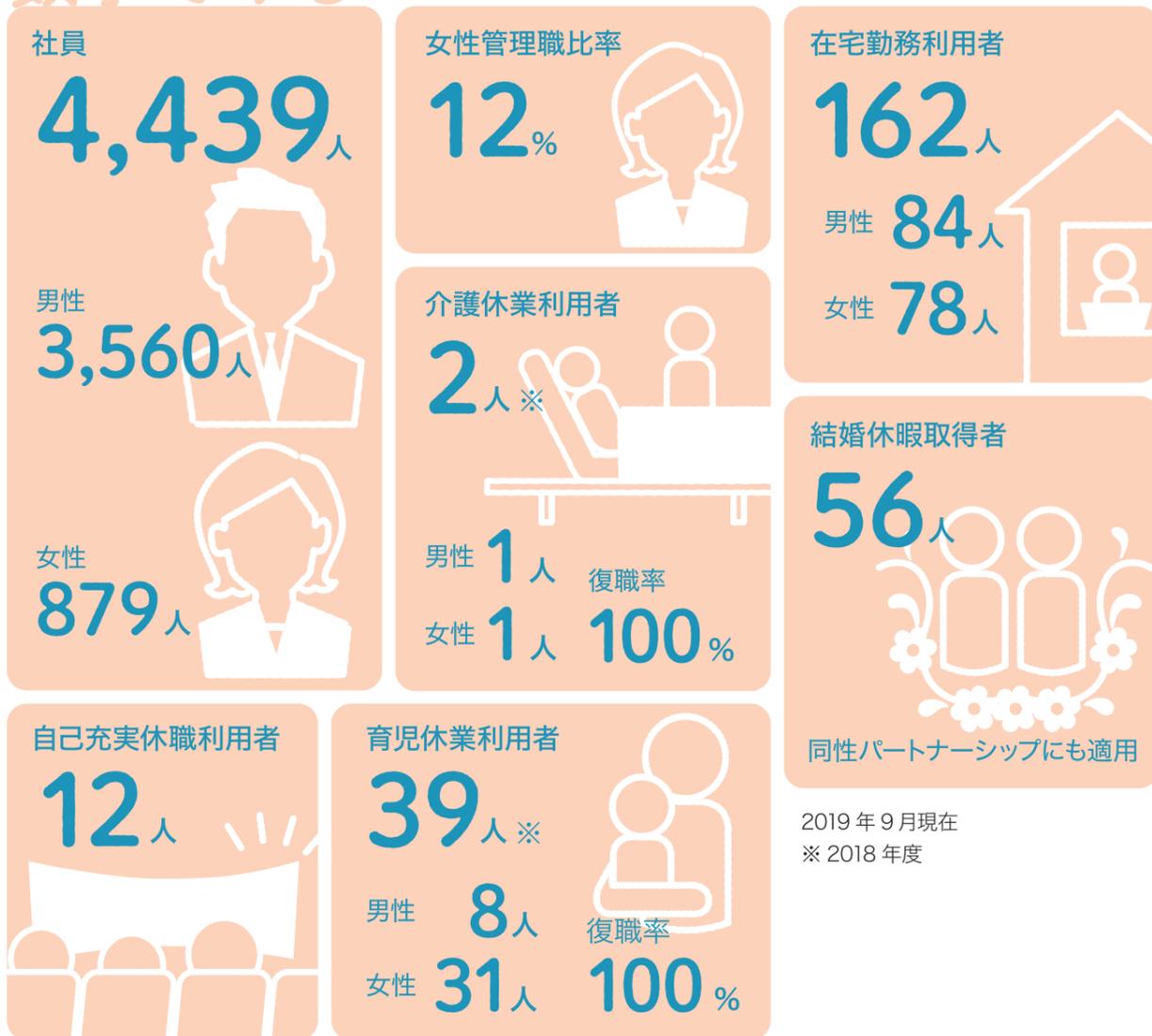


会社情報

会社名 株式会社朝日新聞社
 代表者 代表取締役社長 渡辺 雅隆
 資本金 6億5,000万円
 創刊 1879(明治12)年1月25日
 事業内容 日刊新聞の発行ほか
 売上高 2,454億8,200万円(2019年3月期)

所在地 東京本社 〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2
 大阪本社 〒530-8211 大阪市北区中之島 2-3-18
 西部本社 〒803-8586 北九州市小倉北区室町 1-1-1
 名古屋本社 〒460-8488 名古屋市中区栄 1-3-3
 北海道支社 〒060-8602 札幌市中央区北一条西 1-6
 さっぽろ創世スクエア 9階
 福岡本部 〒812-8511 福岡市博多区博多駅前 2-1-1

数字でみる



【発行】
 朝日新聞社 CSR 推進部
 Tel: 03-5540-7453
 Fax: 03-3541-8999
 Mail: csr-t@asahi.com
<https://www.asahi.com/corporate/>
 デザイン 朝日新聞メディアプロダクション

ペタッとSDGs

新聞学習ふせん



<https://www.asahi.com/corporate/sdgs/>